

しか考えられず皆が先にと争うが、これも何事も列んでやる習慣をつけて次第に団体行動へ誘導してゆきたい。

○遊具はお友達と仲よく用い、又大切に使うようにする。

入園当初は一つ一つの事が習慣として考えられねばならぬ事で、はじめにその機会毎に約束しておかねばならぬ。以上の項目よりも沢山その園により又場所によつてよき習慣を約束してほしい。

行事

- 入園式
- 天皇誕生日

- 始業式
- 入園式
- 天皇誕生日

四月の保育所

鈴木 とく

花開く四月は諸々の仕事の新年です。幼児にとつては、常と変りないものでも、保育者にとつては、夢よ、もう一度……でありたいと思います。その夢が、幼児へ新年を感じとらせることでしよう。

計画の表現は個案書の無味なものでも、実行には理想への一押の努力を……。

今月から、大体一ヶ月の中の各週の計画のメモを考え、(之は保育所全体の動きの様なもの)その上で、出来れば年令別にした保育

の動きか、保育内容別にした扱い方等について、覚え書きの様なものを、考えて行きたいと思ひます。

○第一週、進級した幼児の保育と、新入する幼児の為の保育の準備

○保育者が変わったら、なるべく早く早く親しめるような遊び方をする。

○部屋が変わつたら、その部屋での、ものゝ置場等を一緒に話し合

う。

之は大きい部屋の或片隅でも、その組の為のスペースとして考えて行きたい。

○貼紙等、出来上つている便利なものを使うのもいいが、人数の少い中に、希望をきいて、略画を切りぬかせたりして、各自の

物の置場、その他のもの、位置づけを、遊びながらする。

○新入予定の幼児の為にも考えてあげる様な話し合いをする。

○どの辺か散歩しながらでも、新入児の家庭訪問をする。

○福祉事務所の書類、所長が記入した児童票（之は、保母が記入させて頂く様に、所長に希望したらよいと思う）等に目を通して、新入児のアウトラインを纏んでおく。

○保育の計画を、その保育所の今年度の方針を念頭におきながら考えておく。それと一緒に、自分の保育日誌のつけ方、或は記録のポイント等についても考える。

○組の受持が変つたら、前の保母に、個々の幼児について大体の事を話してもらう。新入児の家庭での様子をきくための、調査の仕方を考えておく。

## ○第二週、新入児を迎える。

新入児の入所のさせ方は、その所長の考え方によつて違ふと思えますが、保育所の立前から云えば、定員が欠けていけば、いつでも新入所児を迎える、と云う事でなければいけないと思えます。たゞ三月は、小学校入学で、比較的多くの幼児が退園するので、新入所児が多くなるのだと、考えなければいけないと思います。

入所児の年齢によつて、四、五才児（四月一日現在）は、一緒に日に入所させても、三才以下は、人数と、日を区切つて入所させるとか（二人或は三人を四日か五日おきに）全部一緒に入れて、保育時間を年令に依つて短時間から長時間に移して行くとか、方法はいろいろありましようが、どれが年少幼児の為によいか、考えて行き

たいと思います。

○この週の一定の日に、新入と決つた幼児のお仲間入りの会をする（入所式と名づけた方は、又御自由ですが）

○その日迄に、すこし賑かに——けれど余り幼児にこびずに——部屋を飾つておく。

○所長の意見の通り、登所の日、人数等の計画をする（全員同じの時は之は不要）

○保育所の環境をしらせ、古いお友達としたしませる工夫をする。

○前からいる幼児が、新入児の為に、保母の意識の外におかれる様な事がない様に、新入児へ、保育所内外の勝手をしらせる為のお世話役等をさせる工夫がいる。

## ○第三週、新入児が、新しい環境に早くなれる為の保育。

○登所のしかたを工夫する。個々に来ないのでなるべく古いお友達によらせる保母が、一定の所まで迎えに行く。

○年令別組わけはしても、個々の組別保育の計画は、この週は立て、も出来ない覚悟をしておく。

○年少組に、泣く子、逃げ出す等があつた場合の事を考えておく必要がある。

○囲の中に入れられた感じを抱かせない様な保育、見せるもの、してあげるもの等を工夫しておく。

○午前のおやつ等で、全員が一緒になつたり、年令別で一緒になつたりする時間をつくる。

○庭の遊具、ブランコ、砂場、滑り台を中心に、箱車、三輪車その他の動かせる物で、自由に遊べるのだと云う感じを与える。

○この週の終り頃迄に年長、年中組の新入児は、お弁当をすませて帰られる様にした。

○すこしずつ、共同生活にきまりのある事をしらせて行く。登所のあいさつ、遊ぶ前の、持物のしまつ、それ等を自分の力でする様に。

#### ○第四・五週、保育所生活に規律がある事を感じさせる。

○一日の楽しい遊びの中に、時間的な区切りのある事が感じられる様に。

○古い幼児には、以前の時とちがい、保育所内での態度がすこし大きくなつたと云う自覚をもたせる様に。

○年令別の保育の中で、安心とまとまりと親密度を増す様に。

○各自が何を好み、何を求め、どんな事に欠けているかを、ざつとでもよいまとめて、五月の保育案を計画する土台とする。

各週の覚え書き的な計画が、もつと細かであつてもいいのです。が、細かにしすぎると、出来なかつた事の悔恨が、翌週への希望をなくしたり、保育への自信をすこしずつ、くずして行つたり等しては、却つていけませんから、なるべくポイントの二、三に重点をおいてその保育方法を考えましょう。

四月中は、新入児を保育所と云う新しい環境に慣れさせる事で過ぎてしまうのですが、以前のからの幼児の保育の仕方とも考えてあげませんと「なんだつまらない」と云う事で、取扱いに困る現象が出て

来る事があります。

全員が殆ど同時間保育出来る様になる迄は、何かと引き立てる様に又は新入児の帰宅後の組別の時など、一倍心と手を傾けてあげる事をお忘れになりませんように。

#### ○遊びについて

家庭にいた時と同じ様にとられない気分を与える為には、外遊びの自由が一番よい事に気付かれています。年令が低ければ、どの玩具も全部手にふれてよいと云う出し方をしておいてあげるのもよいでしょう。

遊びについての覚え書きをしてみますが、この時も、矢張り保育の古い幼児にリードさせるとか、自分の好きな事をやらせておくとかしましょう。

○玩具による自由な遊び、年少程家庭にあるものとか又はめづらしいもの。

少し位の破損は覚悟しておく事、たとえば絵本をさくとか、ほりなげたり、つぶしてしまつたり等。

○砂遊び、土掘り、ブランコ、滑り台等、庭の遊具に、保育が付添つて遊んであげる（之は最初の状態）

○縄、或はたゞ着物につかまつての汽車遊び、大きなボールを順にころがし、受ける等。

○まわりに集つた幼児丈の小さいグループで、円を描いて中に入つてする鬼ごっこ、かごめく、あぶくたつた、竹の子ぬき、等の簡単な、街でも遊ぶ郷土遊び。

○おやつを、街頭紙芝居の様に、太鼓や、積木の拍子木でふれて  
あるいて、一疋まとめて短い紙芝居の後に、みんなで頂く。

○だん／＼集つている時間を分らない様に長くして、知つている  
歌をうたつたり、お話、紙芝居、人形芝居等をやつてあげる。  
こんな事で小時間じつとする事が出来て来る様に。

○少時集つていられる様になつたら、団体遊び、猫ねずみ、椅子  
とり、いらつしやい、や、歌のある団体遊び等をして、一同で  
遊ぶ面白さを味はせる。

○折紙を、おやつのお皿代りにした後、思い／＼に折らせたり、  
簡単な基本を教えたりして、折紙等に、出来ないと言う不安を  
感じさせないで、手技や、工作への糸口とする。簡単な折紙芝  
居をして、こんなのを、皆も折つて見ましようでもよい。初め  
から、手をかけなければ出来ない様なものでなく、自分で折つ  
たと云う誇りを持たせる様な風に。

○材料を出して置く事で、前から居る幼児につられて、粘土も、  
絵画きも、切り紙も、手をふれる状態をみていて、進んでやれ  
る様に勇気をつけてやる。

以上、新入児を、保育所と云う場や、一度に出来た新しいお友達と  
云う集団に、徐々に慣れていける様な遊ばせ方と思はれるものをあ  
げましたが、こうしたやり方も、社会性のある幼児でしたら三才半  
位から、四・五才の大きい幼児にむくものと思ひますが、三才以下  
或は四才でも社会性の少い幼児は、ひとり／＼手をかける様にして  
環境に順応させていかなければならぬになります。

一・二才と、三才児には、その年令だけが安心して遊べる環境をつ

くつてあげる必要を、いつも感じます。一、二才は、乳児として、  
別室を最低基準で命令していますが、三才になると、一躍、五才の  
幼児と同等な扱いで、保母も、三十人に一人ですすから、この所を  
年少の幼児の為に、どの年令の組の保母も自分の事の様に考へてあ  
げる様にしたいと思ひます。三才になつたばかりの幼児の、最初の  
大きな不安（母からはなれると云う）を、温い情と、その年令の状  
態を知る理智とで少くし、とり除いてあげる様にしたいものです。

各種の玩具、それも、立派なものではなく、本当に素朴なものを、  
そして、しつかりと握つたり、抱きしめたり出来るものを、あちら  
こちらにおきましょう。二、三日しますと泣きあぐんだ乳児は、他  
のお友達が持つているものに気がつき、よち／＼と其処迄行つて、  
又、保母の所まで持つて帰つて来ます。こんな所から、玩具との関  
係がついて来る様です。乳児は、あくまで保母対個人である事を念  
頭において、最初に、よいか、れる安定感をつくつてあげ、それか  
らすこしずつ手ばなしてひとり遊びにむかわせましょう。

三才児も、一・二才と同じ様に、四月中の保育予定案は、個人々  
々が、保母になれ、集団の中にいられる様に工夫する事できると  
思ひます。この年令は、なか／＼集められませんが、続きませんし  
身体的な事にも、一人一人手をかける部分が多いので困ります。

理想としては十五人一組位で広い部屋がほしいと思ひますが、そ  
んなわけにもゆきませんから遊具丈でも、三才児が使うものを決め  
て、大きい人達には遠慮してもらう様な方法をとります。私の  
所の保育所は遊具を買つて頂けないで、とは、どの保育所の保母の  
なげきでもあります。みかん箱大小数個、板（六寸巾で厚いもの）

古い小布団、積木、まり、木製方碁、ま、ごと道具等あれば、何とか遊べます。最初は、危険のない様に見守りながら、個々の状態を知る事に努力しましょう。

遊ばせながら、集るきつかけを見出す事。

喜んでみんなと集る方法（遊び）を見出す事。

一組全体が何分位一緒にいられるかを見る事。

等で、三才児のクラスとしてまとまり方を研究して行きましょう。

この間に、保育所での生活のし方を、時間的にノートしておいて下さい。たとえば登所の揃う時間が何時が適当だったか、全体が何となくあきて、保育の側にまとわりつくので、集るきつかけをつくつたのは何時頃だったか、又「朝登園後は」「皆で集つて何かする時は」「帰る時は」等の、こちらがさせたい。きまりのある美しく正しい生活の元となるものは何か、をそのわきにメモをしておきましょう。四月の終り頃には、眞夏迄の春の部の一日の生活プログラムが出来上ると思います。一日の生活プログラムの内容が細く検討されて行つて、保育案の元となるものだとお考え下さい。

### ○家庭との連絡

之まで各週の予定と遊びのメモ及び注意、年少保育の心やり等記しましたが、家庭に代つて保育する様に託された各年令の幼児をほんにより幸福に保育しようとする、家庭での生活状態を予備知識にもつていたいし、日常の連絡も密にしたいくなります。

一度に沢山の事を、お母さんにおき、しても、うるさかされては幼児の為になりませんから、少しずつ、自分が一番知っておきたいと

思うことから、項目をつくり、質問の形式を拵えておいて、土曜日にもお渡しし、月曜日に持つて来て頂く様にしたらよいと思ひます。個人別に綴つておく事で、目を通せば家庭での扱われ方、お母さんの育て方がわかると思ひます。

一番やりよい、そして又知つておき度い事は、食事の好き、きらい、時間、量、間食、与え方、起床、就床時間とか云う生活習慣の様子だろうと思ひます。五月の時に、私の所で実施しました調査項目を、御参考に供したいと思ひます。

家庭との連絡は、細々といくつも挙げられますが、

○登所時間、途中で何か買つて与えない事。

○衣服はよごしてもおしげのないものを着せること。

○肌着はつぎをあて、も、清潔に洗うこと。

○月に一度の母の会には都合して必ず出席して頂くこと。

○泣くからと云つて保母さんや保育所を、おどかしに使わないこと

○歌つたり踊つたりすることをむやみに要求してさせないこと。

○持ち物、着物には、忘れず全部名前をつけておくこと。

○泣いてなかく慣れなくても、子供と一緒に母親も我慢すること等は主なものでしょうか。各保育所の特別なしきたりについて連絡は所長からお話はあるでしょうが、保母も亦その意図する所を了解して、受持の個々のお母さんに、よくわかる様に、お話をすることを忘れない様にしたいと思います。

四月の母の会の話題はどうしても、幼児のこの様な施設を理解して頂く事と、赤ちゃんから学校へ上る迄の幼児の家庭での扱いが、どんなに大事なものを、わかつて頂く様な内容がよいと思ひます。